

三中図書館だより



令和4年度 No. 11

2月10日 図書文化委員会

学校司書 発行

1、2年生がスキー合宿に行っているときに、3年生に読み聞かせをしました。拍手で迎えてくれてとてもうれしかったです。怖い話や人を好きになる気持ちを表現した絵本などを読みました。反応や感嘆の声があり、楽しいひとときでした。

図書文化委員会も俳句大会や百人一首大会など、さまざまな取り組みをしています。文化的な活動は、日々の生活に彩りを添えてくれると思います。忙しい毎日だと思いますが、息抜きにでも学校図書館に寄ってください。

つながる読書



読書ページ総数 **62,488 ページ** ~ 2/9

順位ページ数

1位 6,778 3年 権元 沙耶さん

2位 5,973 2年 知家 日菜乃さん

3位 5,503 3年 松井 菜乃華さん

リクエスト本が入りました！

後期の図書委員会がとった「リクエスト本アンケート」で希望があった本がたくさん入りました。早速「これ、私がリクエストした本だ!」と何人もの生徒が借りたり、友だちとページをめくったりして見ていました。新しい本のコーナーと文庫本コーナーに並べてあります。

金沢が舞台の小説です！

実際に読んだ子たちが、「めっちゃ金沢でした」「周辺に行ってこようと思いました」と、言っていました！

『金沢 洋食屋 ななかまど物語』



一人娘の千夏は、亡き母の言葉を胸に父の洋食屋を手伝っていた。いつかは自分が店を継ぐと思っていたし、父もそのつもりで、千夏の婿にと新しいコックを連れてきた。でも、千夏には美術を学び、卒業とともに東京に戻ってしまう好きな人がいた。二人の男性の間で揺れる、千夏の想いがせつないです。著者は輪島出身の方。金沢が舞台で、湯涌温泉やみなさんが知っている建物などがたくさん出てきます。

『金沢古妖具屋 くらがり堂』

金沢に転校してきた男子高生の葛城汀一は、街を散策しているときに店先にあった壺を壊してしまい、古道具屋でアルバイトをすることに。そこは、妖怪たちの道具を扱うお店だった。店の主人やそこで働くクラスメイトも妖怪で人間に混じって生活しているという。

金沢の泉鏡花記念館のあたりにある茶屋街が舞台です。妖怪とのやり取りや妖怪の日常をお楽しみください。

